

季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〈第四一号〉

立夏りっか

五月五日

齋王のよそおいさいおう

かつて伊勢神宮には、「齋王」という未婚の皇族女性が仕えていました。天皇が即位するたびに新たに齋王が選ばれ、伊勢神宮内宮から十数キロ離れた齋宮（現明和町）に暮らし、年に三度、伊勢神宮のお祭りに赴きました。歴史上では飛鳥時代から南北朝時代にわたり、およそ六十人の齋王がいたといわれています。齋宮は齋王の住まいだけでなく、齋王に仕える官人たちの役所、齋宮寮さいくうりょうもありました。

齋宮跡には齋宮歴史博物館が建ちます。現在は、企画展「齋王のよそおい 王朝人のファッション are-colle-」が開催中です。会場はまず、埴輪が出迎えてくれました。五世紀末の巫女形埴輪は、髪型や服装がはっきりとわかるもの。すでに衣服は体温調整や危険から身を守るだけでなく、職種も表すようになっていたのです。

そして、齋宮が最も栄えたという平安時代は、宮廷女性たちの正装は、十二単（じゅうにひとえ）で知られる豪華な装束でした。十二単は、十二枚の衣を重ねるのではなく、十二分という意味からきています。当時のおしゃれは、衣一枚の美しさよりも、数枚重ねることによるグラデーションに重きを置かれていました。「襲色目かさねいろめ」といえます。今回の見どころは、復元された女房装束が実際に着用した状態で展示されているところ。彩り鮮やかな装束は、昨年の大河ドラマ「光る君へ」が再現されたような華やかさです。また、男性装束の展示も石帯せきたい（ベルト）など興味深く拝見しました。

そんな華やかな展示のなかで目を引くのが、齋王が着用する白の十二単装束です。神に仕える聖なる女性は、白一色の十二単であったのです。

身なりを美しく整える、美しく飾る「よそおい」をテーマにした展示に、衣食住の衣の大切に改めて気づきました。六月十五日まで。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 夏の風物市

春から夏へ移り変わるこの季節、
風鈴や手ぬぐい、うちわ、今では珍しい国産の線香花火など
夏を楽しく迎えるための品を揃えます。

日 時／5月10日(土)～18日(日) 9:00～17:30

場 所／赤福 本店別店舗

○ みそか寄席

毎月末日の「みそか」に合わせて、江戸の趣きを感じる「すし久」2階大広間にて開催される落語会。5月は、桂文我氏、笑福亭生喬(せいきょう)氏、笑福亭呂好(ろこう)氏の3名をお迎えしてお送りします。

笑いの一夜をお過ごしください。

日 時／5月31日(土)

一部 16:00～(受付15:30～)、二部 19:00～(受付18:30～)

場 所／すし久2階

出演者／桂文我、笑福亭生喬、笑福亭呂好

木戸銭／前売り券 2,500円(税込)、当日券 3,000円(税込)

※前売りで定員になった場合は、当日券の販売は行いません。

お問い合わせ/おかげ横丁総合案内「おみやげや」電話0596-23-8838

五十鈴塾

○ 龍と巳

今年巳年、昨年辰年でした。龍は想像の動物ですが蛇がモデルあったとされています。山野に棲み鼠などの害獣を捕食し、脱皮をおこなう蛇は再生、可能性、豊穡の象徴とされ信仰の対象でした。インドの蛇の神が中国に伝わり、角を持ち鱗のある蛇体の龍神となり、雲や雨を起こすとして仏教の八代龍王に比され、日本では水を司る龍神信仰となっていきました。日本神話の神々や八岐大蛇、大神社の大物主神なども龍と蛇の融合したものとされています。また蛇は女性と深いかわりがあるとか。気になるお話です。

日 時／5月15日(木) 13:30～15:00

講 師／西山 克(京都教育大学名誉教授)

参加費／一般 1,800円 会員 1,300円

場 所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 五十鈴茶屋節気菓子

す
菓 っ ば め

今年も軒先に燕が巣を設ける季節になりました。
黄色のくちばしを広げ、親燕の帰りを待つ赤ちゃん燕。
そんな風景を、お菓子のかたちに写し取りました。
可愛いくちばしはレモンです。

じんぐう ばら
神宮の 薔 薇

神宮会館が建つ丘は、雪の如く咲く花に例えて「如雪園」と呼ばれていました。
今では百五十種四百五十株の花々が美しい「神宮ばら園」となっています。
葛寒天を花びらにし、白あんを包んだばらの姿をお楽しみ下さい。

ナンジャモンジャ

外宮・勾玉池のほとりに咲くヒトツバタゴの木。
別名をナンジャモンジャといい、緑と白のコントラストが見事です。
白く細やかな花々を山芋を使ったきんとんで表現しました。